

海外のポケットマニュアルに関する研究

研究分担者 鳥谷部 真一 新潟大学医歯学総合病院 教授  
研究協力者 大戸 朋子 東京医科大学 助教

研究要旨

本邦のポケットマニュアルのあり方を検討するにあたって、国際標準や海外の情報は重要である。主に英語圏において、本邦のポケットマニュアルに相当する資料を調査した。本邦のように、常時携帯する紙媒体のポケットマニュアルという媒体は少なく、スマートデバイスを活用したマニュアルが主流と考えられた。本邦のポケットマニュアルに類似した内容の電子媒体もインターネット上で散見されたが、さらに詳しい医療機関独自のマニュアルへのポータルとして使用されていた。本邦でも医療現場でのICTの導入やスマートデバイスの利活用が加速度的に進んでいる。今後のポケットマニュアルの方向性を検討する上でも海外の事情は参考になると考えられた。

A. 研究目的

特定機能病院等において安全性を高めるためのポケットマニュアルへ記載すべき事項等を検討する際に、国際標準、あるいは、海外との比較という視点は重要である。海外とくに英語圏の諸外国において、医療安全管理に関するポケットマニュアル（以後ポケットマニュアルと略）が利活用されているかどうか調査し、利活用されているようであれば、その呼称や内容を調べ、本邦のポケットマニュアルとの比較を行うことを目的とした。

B. 研究方法

本邦におけるポケットマニュアルに相当する資料について、文献を渉猟するとともに、インターネット上のポケットマニュアルに相当する資料を検索した。

C. 研究結果

検索する際の調査対象となるポケットマニュアルおよび医療安全管理に関するマニュアルの定義について、たとえば「独立行政法人国立病院機構における医療安全管理のための指針（令和3年度版）」1)では、「マニュアル」は「医療安全管理のための具体的方策、医療事故発生時の具体的対応及び医療事故の評価と医療安全管理への反映等をまとめたもの」としている。この定義の中で「医療事故」は医療法第六条の十で規定される「医療事故」と混同される恐れがあるため、医療に関連した有害事象と読み替えて検索することとした。このような内容を盛り込み、かつ携帯を目的とした紙媒体あるいは電子媒体を、今回の研究で扱うポケットマニュアルとした。

しかし、以上のような条件に該当するポケットマニュアルに関して、英語圏の文献を渉猟したが、該当する文献は見いだせなかった。たとえば、PubMedにて（pocket manual [Title/Abstract]）という検索式で検索したが、検索結果は0件であった。すなわち、英語圏の医療領域において、“pocket m

anual” という用語が使用されていない可能性が高いことが明らかとなった。しかしながら、この段階ではポケットマニュアル自体が存在しないのか、“pocket manual” と呼ばれていないが類似したモノが存在するのかが不明であったため、様々な用語を検討しつつ、探索を続けた。

調査を続けた結果、“pocket manual” とは呼ばれていないが、類似したモノが存在することがわかった。それらは“pocket manual” ではなく、“guide” や “booklet” などの単語が用いられていた。また、これらはOrientation guide, Orientation manual, Orientation book, Orientation bookletなどと、Orientationをキーワードとして含むものが多かった（4～11）。また、媒体については、本邦から米国に臨床留学した医師の体験記によれば、米国の研修医はスマートデバイス内に市販のマニュアル類やアプリケーションを保存して、必要時に利活用している。あるいは、勤務先医療機関はWeb上に職員専用のポータルを用意しており、医師はスマートデバイスから直接勤務する医療機関のWebにアクセスして、マニュアル類を閲覧できるようにしていることが明らかとなった<sup>2,3</sup>。その中に本邦のポケットマニュアルに相当する各医療機関独自のマニュアルが含まれていると考えられた。Web上にはこうした各施設のOrientation manualがいくつもアップロードされており、情報を必要とする者がいつでも閲覧できる状況となっていた。こういったマニュアルがインターネット上でみつけること自体、紙媒体のポケットマニュアルという媒体が一般的ではないことを反映しているものと考えられた。

これらのマニュアルは、本邦のポケットマニュアルと類似する内容を持つもの（別表 1）もあった。

その一方で、本邦と比較して以下のような点において差異がみられた。

1. 医療機関によって項目立てや内容の個別差が非常に大きい。
2. Orientationという名称の通り、患者安全のみ

ならず、新たに採用された職員に向けたオリエンテーションという意味合いが強い内容になっている。たとえば職員が着用する服装を規定している医療機関が多い。

3. 病院スタッフの安全や健康面に関するマニュアルが、患者安全・医療安全と同等に重視されており、項目立てされている。たとえばケアの際に腰痛を防止するマニュアルであったり、ケアの際の適切な体の扱い方といったマニュアルが含まれている。
4. 本邦のポケットマニュアルでは目にすることが少ない、顧客サービス (Customer Service) という用語が頻出する。
5. ポケットマニュアル自体は頁数が少ないが、さらに詳しいマニュアルのリンクを貼っていて、その先にさらに詳細な個別のマニュアルがある、という構成になっているものが多い。詳細なマニュアルは医療機関の職員のみが閲覧できるような仕様になっているものが多く、一般に公開されていないものが目立った。ポケットマニュアル自体は、さらに詳しいマニュアルへのポータル的な性格である。
6. 各種物理的な障害や環境安全 (爆発物, 危険物, 火災など) に関するマニュアルが含まれているものが多い。

#### D. 考察

主に英語圏において、本邦のポケットマニュアルに相当する資料を検索した。使用している媒体は、本邦においては常時携帯する紙媒体のポケットマニュアルが一般的であるのに対して、海外 (英語圏) ではスマートデバイスの使用が一般的と考えられた。マニュアルも医療安全マニュアルあるいは医療スタッフマニュアルを意味する名称は少なく、OrientationやReferenceをキーワードにしているものが多かった。すなわち、新採用職員向けのオリエンテーションとして広く医療安全管理以外の事項についても取り上げ、さらに詳しい各マニュアルの参照元として扱われているという印象を受けた。さらに詳しいマニュアルは、インターネット上の医療機関独自のマニュアルへのリンクが貼られており、ポケットマニュアルは詳しいマニュアルへのポータルとして使用されているようである。

本邦でも、医療現場でのスマートデバイスの利活用は加速度的に進んでいる。スマートデバイスの利点としては、大量の情報を身軽に持ち歩け、詳細な情報をいつでも閲覧できる点、内容に関しては変更 (書き換え) が容易なため、常に最新情報を参照できるなどの点が挙げられる。一方、紙媒体は物質的に持ち歩きに限界があるため、ある程度重要だと思われる情報を厳選して掲載する必要があることや、内容に変更などが生じた際は、印刷などのコストが追加で必要となることなどがデメリットである。しかしながら、スマートデバイスと違い充電などが不要である点や、スマートデバイスよりも安価であり、大量に配布が可能な点は大きな利点であるといえる。これらは今後のポケットマニュアルの方向性を検討する上でも参考になると考えられた。

#### E. 結論

主に英語圏において、本邦のポケットマニュアルに相当する資料を検索した。本邦における、常時携帯する紙媒体のポケットマニュアルという媒体は

少なく、スマートデバイスを活用したマニュアルが主流と考えられた。本邦のポケットマニュアルに類似した内容の電子媒体もインターネット上で散見されたが、さらに詳しい医療機関独自のマニュアルへのポータルとして使用されているようである。本邦でも、医療現場でのスマートデバイスの利活用は加速度的に進んでいる。今後のポケットマニュアルの方向性を検討する上でも参考になると考えられた。

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他 (参考文献)
  - 1) [https://nho.hosp.go.jp/cnt1-1\\_00207.html](https://nho.hosp.go.jp/cnt1-1_00207.html)
  - 2) [https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2007/PA02723\\_05](https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2007/PA02723_05)
  - 3) [https://www.fmu.ac.jp/univ/daigaku/kouryu/pdf/28\\_05takeguchi.pdf](https://www.fmu.ac.jp/univ/daigaku/kouryu/pdf/28_05takeguchi.pdf)
  - 4) <https://www.christushealth.org/-/media/christus-health/for-providers/files/education/continuing-medical-education/2023-md-orientation-manual-rev.ashx>
  - 5) <https://armcemergency.org/wp-content/uploads/2016/06/Resource-Book-8.16.pdf>
  - 6) <https://medschool.vcu.edu/media/medschool2018/content-assets/files-and-documents/pdfs/RESIDENTORIENTATIONMANUAL2015.pdf>
  - 7) <https://www.hopkinsmedicine.org/-/media/johns-hopkins-bayview/orientation-participation-guide-2018.pdf>
  - 8) [https://www.mclaren.org/Uploads/Public/Documents/Lansing/Employment/caregiver\\_orientation\\_manual.pdf](https://www.mclaren.org/Uploads/Public/Documents/Lansing/Employment/caregiver_orientation_manual.pdf)
  - 9) <https://www.greatriverhealth.org/documents/content/GRH-Employee-Orientation-Guide-112122.pdf>
  - 10) <https://www.huntsvillehospital.org/images/PDFs/HR-Orientation-Resource-Book.pdf>
  - 11) [https://yokosuka.tricare.mil/Portals/133/NMRTC%20Yokosuka%20TJC%20Pocket%20Guide\\_May28.pdf](https://yokosuka.tricare.mil/Portals/133/NMRTC%20Yokosuka%20TJC%20Pocket%20Guide_May28.pdf)

別表 1)

患者のケア（アルファベット順）

医療スタッフの責務と機会（アルファベット順）

1	事前指示書 (Advance directive)	1	有害事象報告
2	生命倫理	2	継続的な医学教育
3	輸血	3	災害対応
4	体液曝露と針刺し	4	医師の破壊的行動
5	カテーテル関連尿路感染症 (CAUTI)	5	オーダ記載方法
6	中心静脈ライン感染症 (CRBSI)	6	大学院医学教育
7	鎮静	7	院内救急
8	死亡と剖検	8	医学図書館
9	有効なコミュニケーション (AIDET)	9	電子カルテ
10	救急医療労働法 (EMTALA)	10	医療スタッフの義務
11	終末期医療	11	患者プライバシー (HIPAA)
12	院内転倒防止	12	患者の権利と責任
13	医師の診察の頻度と時刻	13	医師の健康障害
14	院内感染	14	医師の能力評価 (FPPE, OPPE)
15	院内救急コール/コードブルー	15	質改善と患者安全
16	薬剤確認	16	警鐘事例, RCA
17	医療通訳	17	カルテの記載遅れに対する処分
18	臓器提供	18	リーダーシップ
19	疼痛管理		
20	患者確認		
21	プレスクリーニング部門 (医療の必要性を評価する)		
22	身体拘束		
23	術創感染 (SSI)		
24	使用してはいけない略語		
25	ユニバーサルプロトコル (患者誤認, 部位誤認を防ぐ)		